



柴崎徳一郎 議員

専用野球場施設の整備を

答 専用施設としては難しい

問 専用の野球場施設整備の要望が多いが。

答 町長 多目的な施設整備が、豊かな生活環境整備に寄与。

専用野球場整備は難しい。

問 事業未定の八幡山グラウンド拡張整備計画の再考（400メートルトラックと内側に人

工芝サッカー場）を提案したい。

答 教育委員会事務局 長 研究懇談会で基本構想がまとめられ、多目的広場としての位置づけが決定している。

問 群馬用水緊急改築トンネル併設水路工事の現況は。

答 町長 5月末での工事費ベースで約77%の進捗率、来年6月完成予定。

問 上水道の群馬用水と湧水の活用割合は。

答 産業建設課長 群馬用水（県央第一水道）からの供給が全体の約66%、表流水・伏流水・地下水・新幹

線榛名中山トンネル湧水で約34%。

問 田植え時期が早まっている、灌漑期の前倒し増量を。

答 産業建設課長 現在5月16日からの前倒しで対応している。

問 小学校における卒業式のあり方（卒業生の服装）検討を。

答 教育長 PTA運営委員会や6年生保護者懇談会などで検討の場を設けるよう、学校に指示したい。

答 町長 役場内部で相談し、よりよい方向性を見いだしたい。

問 道の駅駐車場への放置車両対処策は。

答 産業建設課長 毎日巡回し、注意深く監視、警察との連携をしている。

問 サイクリング道路脇にレンタル・コミュニティ自転車設置を。また、パーク・ケイマンゴルフなど町民利用者への特典を。

答 町長 検討する。

本人の意思だが指示をしたい

協働のまちづくりで職員らの率先参加を

問 協働のまちづくりを提唱しているが、役場職員の各種地域活動への率先参加を期待したい。

答 町長 非常に重要なことと認識しているが、強要するもの

でなく、本人の意思にもとづくものと考えているが、指示をしたい。

問 東の玄関口で地域コミュニティ交流事業として継続しているラジオ体操への設備支援は。



環境と体調に感謝し「病気・ケガに負けない体づくり」に精進する吉岡IQ古希チーム（町民グラウンド）



五十嵐善一 議員

河床など河川管理の実態は

答 県への要望にもとづき対応

問 吉岡川の河床など
の実態認識と対応

は。

答 町民生活課長 現
状は確認しており、

継続して県へ要望。

問 吉岡町の外国人居
住者数は。

答 町民生活課長 1
32人、50世帯。

問 災害時の外国人支
援マニュアルは。

答 町民生活課長 未
整備だが、消防科

学総合センター作成の
対応マニュアルを活用。

問 学校給食センター
調理室にエアコン

を。

答 教育長 オール電
化であれば可能だ

が、現状では困難。

問 学校給食で食物ア
レルギーの対応は。

答 教育委員会事務局
長 除去食や代替

食は未実施で、献立ア
レルギー対応表を活用

して注意喚起。食物ア
レルギー申告児童生徒

数は64人、弁当持参者
は28人、*アナフィラ

キシ―申告はなし。

問 児童生徒への食育
の推進状況は。

答 教育長 栄養教員
が学校に出向いた

指導や、学級活動およ
び関連教科で指導。

問 県の実践協力調理
場の指定を受け、食

育に取り組んだ成果は。

答 教育委員会事務局
長 児童生徒が給

食への関心を持つきつ
かけとなり、給食残量

が減少。

問 給食残さないデー
の取り組みは。

答 町民生活課長 認
知症安心マップの

作成を検討。

問 まちで認知症と診
断されている人数

は。

答 町長 推計値とし
て500人。

答 教育委員会事務局
長 献立に工夫を

凝らすなど、残菜を減
らすよう努力。

問 道徳の教科化への
まちの対応は。

答 教育長 評価は内
申点に影響しない。

検定教科書を使用して
も、特定の価値観を押

認知症ガイドブックの作成を

認知症安心マップ作成を検討

問 まち認知症ガイド
ブックの作成を。

答 健康福祉課長 認
知症安心マップの

作成を検討。

問 まちで認知症と診
断されている人数

は。

答 町長 推計値とし
て500人。

問 認知症への理解を
広める取り組みは。

答 町長 認知症サポ
ーター育成事業、

認知症初期集中支援チ
ームの配置、小学4年

生で理解を深める教育
の推進などを実施。



雑木などが生い茂る吉岡川（漆原地域内）

ミニ解説

※アナフィラキシ―
アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、
腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼイゼイした呼吸や
呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激
に出現した状態。



山畑祐男 議員

男女共同参画今後の展開は

答 男女共同参画推進協議会設立

問 男女共同参画事業をどのように事業展開するのか。

答 町長 男女が等しく社会の利益を享受し、社会に対しても、ともに責任を担う社会となるように実施。

問 第1回定例会にて男女共同参画計画調査業務委託料206万円計上された。内容は。

答 町民生活課長 推進協議会を立ち上げ、町民3千人（男女半々）にて意識調査・課題を検討。平成30年度に基本計画の策定予定。

問 避難準備情報や避難勧告について、まちの全住民に対する情報伝達方法は。

答 町民生活課長 防災行政無線、よしおかほつとメール、各携帯会社の緊急速報メール、国からの直接伝達するJアラートを利用して伝達。

問 道の駅よしか温泉周辺は、防災拠点となるのでは。

答 町長 道の駅は食品、温泉があり、宿泊施設としても利用でき、防災拠点と考える。

問 救援物資の受け入れ、避難所までの配送方法は。

答 町民生活課長 4月に北群渋川農協と協定を結び、野菜センター、ライスセンターを受け入れ先とし、

問 町民生活課長 防公用車で配送。火災時の消防隊員の後方支援はでき

答 ないか。町民生活課長 支援必要ありと消防



力強い放水（吉岡町消防団第2分団）

本部が判断した場合、日赤奉仕団、女性防火

クラブに支援協力要請。

観光事業充実に観光協会の設立を

広域での動きを視野に慎重に検討

問 観光事業充実にため、観光協会設立を。

答 町長 設立については、いろいろな人の意見を聞き、広域での動きを視野に入れながら慎重に検討。

問 渋川市、吉岡町、榛東村の3市町村が、観光地の戦略策定や市場調査運営を担う日本版DMO「観光地域づくり推進法人」の

答 候補法人に、官公庁から登録されたが、内容は。

答 町長 DMOとは、観光地域づくりのかじ取り役として、多くの関係者と協働しながら、戦略策定、実施する法人。観光まちづくりを推進し地域の魅力を売り出していく。



小池春雄 議員

スラグ問題しつかり協議を

答 要望書を提出

問 吉岡町ホームページの調査状況の公表に対し、大同特殊鋼は「吉岡町及び群馬県と協議の上、誠意を持って対応する」と自社ホームページで述べている。責任は大同特殊鋼にあると認めている。

しかし南下古墳公園駐車場にあるスラグに対して、アスファルト舗装で問題の解決をはかるうとしているが、撤去を求めていくことが、一番正しい解決方法である。吉岡町の希望を言って、しっかりと処理してもらったべきだと思ふが。

答 町長 まちとして、町民の不安解消が重要であると認識。早期の課題解決と将来にわたる処分費の負担について、要望書を提出。

問 まちでは子宮頸がんワクチンに対し、積極的に補助金を出してきた。しかし、ワクチンの弊害が疑われる問題が起きている。先進事例に倣い、まち独自の救済・助成制度を考へるべきだと思ふが。

答 町長 まち単独の救済については、現在検討中。

食物アレルギー、現状の対応策は

個別プランを作成し情報共有

問 食物アレルギーを有する子どもたちが

が増えている。まちの学校での、保護者生徒の要望の受け入れ、現状の対応策と、今後の課題は。

答 教育長 給食センターの毎月発行の献立表に加え、給食で使用する食材の成分を明記した「献立アレルギー対応表」を保護者に配布。学校給食センターのホームページでも公開。教室でも掲示し担任が該当者に注意。

アレルギーの確認については、毎年2学期末に調査。対応が必要な児童生徒は、保護者の面談、医師の指導を経て個別プランを作成。給食センターへはリスト提出。また、食物アレルギー対策委員会を年度初めに開催し、職員全員で情報共有。絶対事故が起らないように対策を取っている。



給食おいしいね（明治小）